

2011年3月期 中間決算について

2011年3月期（2010年度）中間連結決算は、中間期としては3期ぶり「増収増益」

2011年3月期（2010年度）通期連結業績見通しは、前期比「増収増益」の見通し

1 航空取扱量について

区 分	中間期(4月1日～9月30日)				通期(4月1日～3月31日)			
	2009年度 実績 A	2010年度 実績 B	【増減①】		2009年度 実績 C	2010年度 見通し D	【増減②】	
			数量 B-A	% B/Ax100			数量 D-C	% D/Cx100
航空機発着回数(万回)	9.4	9.9	0.4	104.7	18.7	19.4	0.7	104.0
航空旅客数(万人)	1,618	1,761	144	108.9	3,285	3,376	91	102.8
航空貨物量(万トン)	92	110	18	119.4	196	214	18	109.2
給油量(万kl)	241	246	5	102.0	478	486	8	101.6

(1) 2010年度中間期の実績【増減①】

- 航空機発着回数および給油量は、空港容量拡大に伴う国際線の新規就航等による増便や、昨年冬ダイヤからのJAL、ANA国内線の増便により増加。
- 航空旅客数は、景気が回復基調にあること、新型インフルエンザの影響を受けた前年同期から回復したこと等により増加。
- 航空貨物量は、景気の回復基調を背景に増加。

(2) 2010年度通期の見通し【増減②】

- 航空機発着回数および給油量は、新規就航等の増便により増加。冬ダイヤからのJAL国際線の減便の影響等も見込む。
- 航空旅客数および航空貨物量は、羽田国際線拡大の影響を一定程度見込むものの、上期の好調な実績を受け増加。

2 連結決算について

(単位：億円)

区 分	中間期(4月1日～9月30日)				通期(4月1日～3月31日)			
	2009年度 実績 A	2010年度 実績 B	増 減		2009年度 実績 C	2010年度 見通し D	増 減	
			金額 B-A	% B/Ax100			金額 D-C	% D/Cx100
営業収益	895	980	84	109.4	1,798	1,894	95	105.3
営業利益	115	219	104	190.5	213	283	69	132.6
経常利益	71	176	104	246.7	125	196	70	156.4
税金等調整前純利益	62	169	107	272.2	108	173	64	159.4
中間(当期)純利益	35	99	64	281.2	60	99	38	163.5

(連結の範囲) 連結子会社 21社、持分法適用関連会社 1社(前年度末と同数)

(決算概要詳細は裏面)

(1) 経営成績の概要

営業収益は980億円（前年同期比84億円の増）、営業利益は219億円（同104億円の増）、経常利益は176億円（同104億円の増）、税金等調整前中間純利益は169億円（同107億円の増）、中間純利益は99億円（同64億円の増）の「増収増益」の決算

- 営業収益：前年同期比 84 億円の増収
- 営業利益：前年同期比 104 億円の増益
 - 営業収益の増加に加えて、営業費用が退職給付費用の減少や設備更新費用の縮小や経費削減に引き続き努めたことで19億円減少した結果、増益となった。
 - 空港運営事業：増収増益。航空機の発着回数は前年同期から増加したものの、前年11月からの国際線着陸料の引き下げの影響で空港使用料収入が減少。一方、航空旅客数が新型インフルエンザの影響があった前年同期から増加したことに加え、昨年11月からの料金改定の影響の通期化により、旅客施設使用料収入は増加。空港運営事業全体の営業収益は増加、営業利益は中間期としては2期ぶり黒字転換。
 - リテール事業：増収増益。航空旅客数の増加に伴い、子会社の物販収入を中心に営業収益が増加。
 - 施設貸付事業：減収増益。航空会社の事務室等の返還があった影響により土地建物等貸付料収入が減少。
 - 鉄道事業：7月の成田スカイアクセス開業に伴い、線路等の使用料収入を計上し、営業収益が増加。営業損失は改善。
- 経常利益：前年同期比 104 億円の増益
- 中間純利益：前年同期比 64 億円の増益

(2) 財政状態の概要

- 資産合計は、成田新高速鉄道にかかる固定資産の圧縮等により、前期末比616億円減の9,744億円。
- 負債合計は、成田新高速鉄道にかかる前受工事負担金を負担金受入額に振り替えたことにより前期末比697億円減の7,389億円。有利子債務残高は、前期末比44億円減の5,845億円。平均金利は前期末同様1.51%。
- 純資産合計は、前期末比80億円増加し、2,355億円。

(3) キャッシュ・フローの概要

フリーCFは173億円（前年同期比205億円増加）

- 営業CFは、税金等調整前中間純利益が大幅に改善したことから400億円のキャッシュイン（前期比102億円の増加）。
- 投資CFは、短期資金運用のための有価証券（譲渡性預金）取得による支出があったものの、設備投資のピークが過ぎ、固定資産の取得による支出が大幅に減少したことから△226億円のキャッシュアウト（前期比103億円の減少）。
- 財務CFは、長期借入金の返済、配当金の支払い等により、△72億円のキャッシュアウト（前期比168億円の増加）。

(4) 通期の連結業績見通し

営業収益は1,894億円（前期比95億円の増）、営業利益は283億円（同69億円の増）、経常利益は196億円（同70億円の増）、税金等調整前当期純利益は173億円（同64億円の増）、当期純利益は99億円（同38億円の増）の「増収増益」の見通し

- 営業収益は、料金改定の通年化及び航空旅客数増加等により増収。
- 営業利益は、営業収益の増加により増益。
- 当期純利益は、営業利益と同様に、営業収益の増加により増益の見通し。
- また、2010年5月11日発表の業績予想からは、営業収益は31億円、営業利益は27億円、経常利益は32億円、当期純利益は18億円、いずれも上方修正。

※ なお、実際の業績は、経済情勢等の様々な要因により大きく異なる可能性があります。